

となりの日曜学校 ③

高知聖パウロ教会



私たちの日曜学校は0歳から小6までの生徒9名、教師2名、平均の出席者数5名ほ

どの小さな日曜学校です。毎月第一、第三主日の10時半に集まり、大人が聖餐式をしている間に、会館ホールで聖書のお話を讀んだり、絵本の読み聞かせをし、その後、大人の礼拝が終わった後に、司祭の司式で日曜学校の礼拝をしています。

今年の夏は、会館でのお泊り会をしました。近くのプールで遊び、教会でデザートクッキング、図書館の怖いお話の読み聞かせ会に参加し、夕食や花火を教会で楽しみ、会館2階の和室でみんなで泊まりました。自宅を離れて寝るのはほぼ初めてという子もいましたが、小学生組は就寝時間後も話が盛り上がり、午前1時半まで起きていた子たちもいたようです。

また、毎年クリスマスにはイブ礼拝の中で、降誕劇の衣装をつけて、クリスマスの紙芝居を読んでいます。イブ礼拝には、普段あまり来られない子どもたちも来てくれることが多いので、事前練習不要の当日参加で聖劇に参加してもらえるように、工夫した結果です。まだ字が読めない小さな子どもたちも、天使の衣装などを着て祭壇に立つだけで、クリスマスの特別なワクワク感を感じています。

今年は数年ぶりに中高生大会への参加者がいました。今後も日曜学校卒業後の子どもたちが教会に連なっていけるようにサポートしたいと考えています。

(高知聖パウロ教会 佐藤恵子)

鳩だより 《敬称略》

祝 洗 礼	9月13日(火) ナタナエル 富田 博重 徳島インマヌエル教会
祝 堅 信	10月2日(日) マリ ア 加 計 晃子 神戸聖ミカエル教会 垂水伝道所
祝 聖 婚	9月17日(土) ミカエル 鍋 島 直 匡 辻 本 沙 織 神戸聖ミカエル教会
告 白	8月20日(土) モ ニ カ 横 野 翠 松江基督教会

9月7日(水) マル タ 奥 井 直 子 神戸昇天教会	9月13日(火) ナタナエル 富田 博重 徳島インマヌエル教会	10月6日(木) ベルナデッタ 和田 京子 姫路顕栄教会	10月11日(火) リ ベ カ 藤 田 鏡子 神戸聖ミカエル教会
9月1日(木) マリ ア・マグダレン 吉田 久仁子 明石聖マリア・ マグダレン教会から 東北教区 小名浜聖テモテ教会へ	9月13日(火) アン デ レ 奥 田 英 夫 神戸聖ミカエル教会	9月17日(土) ミカエル 鍋 島 直 匡 辻 本 沙 織 神戸聖ミカエル教会	9月20日(土) モ ニ カ 横 野 翠 松江基督教会

12月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2016年12月1日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 中村 豊
説教 司祭 杉野 達也

*12月の記念逝去教役者

2日 主 教	チャニング ウイリアムズ
2日 司 祭	ヨハネ 長 寄 泉
5日 伝道師	森 井 祐 彦
5日 司 祭	テモテ 岩 田 頼 夫
7日 伝道師	パウロ 島 田 信 郎
10日 司 祭	パウロ 大石 虎 太
10日 伝道師	パウロ プレストン 功 税
14日 宣教師	イブリン 水 野 主 三
14日 司 祭	ペテロ 貫 形 虎 三
16日 司 祭	ペテロ 尾 一 ム
19日 宣教師	マリー ホ ス コ ッ ト
20日 宣教師	ハナ 加 藤 九 子
21日 司 祭	ペテロ 永 沼 輝 八
25日 伝道師	マリヤ 伊 壁 ン
29日 司 祭	マルコ 伊 壁 ン
30日 宣教師	オードリー 杉 野
31日 司 祭	マルコ 杉 野

公 示

日本聖公会神戸教区第84(定期)教区会・
第85(臨時)教区会を
下記のように招集します。

救主降生2016年8月28日

日本聖公会神戸教区 教区会議長
主教 アンデレ 中村 豊

記

第84(定期)教区会
日時：2016年11月23日(水・祝)
午前7時から午後2時まで

第85(臨時)教区会
日時：2016年11月23日(水・祝)
午後2時から午後5時まで
場所：神戸聖ミカエル大聖堂

第84、85教区会を招集するにあたり、
書記を下記のように任命します。
司祭 パウロ 瀬山 公一
司祭 ペテロ 中原 康貴

第85(臨時)教区会にて教区主教選挙を
実施するにあたり、主教選挙候補者推
薦管理委員を下記のように任命します。
司祭 タビデ 林 和広
ジョージ 大東 正人
エリザベツ 釜山三重子

備える

司祭 ヨシユア 長田 吉史



「眼開きて見極めよ 耳
そばだてて聞きただせ 我
等に不断の準備あり 手足
に心に ああ準備
準備、準備、固きぞ準備
フレ！フレ！フレ！ ス
カウト我等の 準備ぞ固き」
葛原しげる作詞、山田耕作
作曲『花は薫るよ』(第二番)
1922年制作 1924年

(大正13年) 採用
エルサレムに入城された
イエス様は、弟子たちとの
最後の晩餐の時を過ごされ
る前に、この世の終わりに
ついて語られました。エル
サレム神殿が見事な石と奉
納物で飾られていることを
話している人々に、イエス
様がその神殿の崩壊を予告
されたことがきっかけです。
おそらく人々は大きな不安
に駆られたはずです。だか
ら『そのことはいいつ起る
のですか』と尋ねたのです
が、イエス様はまず混乱と
争い、そして迫害が起り、
それから終末の徴としての
自然界の大異変を語られま

した。イエス様に尋ねた人々
にしてみれば、それを聞いて
余計に不安が増したよう
に思えますが、でもこれは、
終わりの時に起る状況を
一層強調して、ただ単に脅
迫しているものではありません。
イエス様はその時の状
況の前に『惑わされないよ
うに気をつけなさい』と語
られています。そして終わ
りの時の状況の後、『どん
な反対者でも、対抗も反論も
できないような言葉と知恵
を、わたしがあなたがたに
授ける』と語られ、最後に『忍
耐によつて、あなたがたは
命を勝ち取りなさい』と語
られています。つまり、終
わりの時にはイエス様がき
つと私たちに必要な言葉と
知恵を与えろという、言っ
てみれば希望の約束を与え
るから、そのために「惑わ
されないように」そして「忍

耐をもつて」生きること
を伝えておられるのです。
では、そのように生きる
とはどういうことなのか。
アシジの聖フランチェスコ
の次のようなエピソードが
残っています。ある日、兄
弟の修道士といつしよに庭
で働いていた時に、一人の
兄弟から、次のように尋ね
られました。「もし、今晚、
世の終わりが来ると知った
ら、あなたは何をします
か？」すると、聖フランチ
エスコは「庭での仕事を続
けます」と答えた、と言う
ことでした。その聖フラン
チェスコの言葉のように、
「惑わされないように」そし
て「忍耐をもつて」生きる
と言うことは、突然、何か
の窮地を脱するかのよう
に、何か大きなことをする
のではなく、普段から神様に
忠実な姿、そして務めを果
すために一日一日を大切に
するということなのではな
いでしょうか。より具体的
に言えば、聖パウロがテサ
ロニケの信徒への手紙の中
で、それぞれが置かれた状
況の中で「自分のつとめを

誠実に果たすように、怠惰
な生活はしてはならない、
自分で得たパンを食べるよ
うに、そして落ち着いて仕
事をしなさい」と言ってい
るように、与えられている
一日一日を忠実に生きてい
く、そのことを常に備えて
おくことをイエス様は私た
ち一人ひとりにも語りかけ
てくださっているのです。
11月を迎え、まもなく今
年2016年も終わりの時
を迎えようとしています。
教会の暦では、11月27日の
日曜日から新しい年がスタ
ートです。このように今年
の終わりの時にあたって、
私たちは今一度与えられて
いる一日一日の恵みを感謝
し、そして忠実に生きて常
に來るべき日に備えておき
たいものであります。

「眼開きて見極めよ 耳
そばだてて聞きただせ 我
等に不断の準備あり 手足
に心に ああ準備
準備、準備、固きぞ準備
フレ！フレ！フレ！ ス
カウト我等の 準備ぞ固き」
(広島復活教会・牧師
呉信愛教会・管理牧師)

8月29日～31日、鳥取聖ルカ教会で青年交流会が行われました。今回はワークキャンプということで聖ルカ教会の椅子や礼拝堂の扉をヤスリで削ったり、ペンキ塗りをしたりして、教会をリニューアルさせて頂きました。参加者は青年と教役者合わせて19人で、3日間という短い期間ではありましたが一生懸命ワークに励み、教会を元より美しくすることができました。

今回のワークキャンプでは新しい出会いや懐かしい出会いがあり、いつもと違う新鮮な雰囲気の中でワークが進みました。賑やかで楽しく、ふざけあったりして仲の良い青年たちですがワークの時は気持ちの切り替えがしっかりとできていて、お互いがお互いの頑張る姿を意識し合って誰一人諦めずに最後までワークをやり遂げました。また一人も事故や怪我に合うことなく

青年交流会 ワークキャンプ

無事にワークを終えることができたことは本当に皆様のお恵みとお導きによるものだと思います。最終日に完成した聖ルカ教会を見たとき、少し不備なところもあるかもしれませんが、完成度の高さに富み、今回のワークキャンプを通してさらに仲間と力を合わせて取り組む協調性が養われ、また様々な場面で相手を思いやる関わりができたと思います。



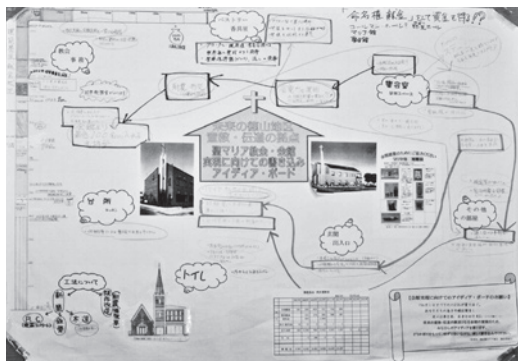
最後に、交流会の期間、聖ルカ教会の信徒の方々がたくさん

皆さんの協力と差し入れをしてくださったおかげで青年たちは心身ともに精一杯ワークに取り組むことができました。本場にありがとうございました。初めての良い経験ができたし、これからも青年交流会（特にワークキャンプ）が行われま

教会建築シリーズ③ 徳山聖マリア教会編

教区内外の皆様には、募金にご協力を頂き心から感謝いたします。小さな教会で、このような大きな挑戦が出来るのは皆様のお導きであり、また皆様のお祈りとご支援のおかげです。

7月の上棟から工事は順調に進んでいます。その現場を目の前にし、夢が少しずつ形になって行くのを見るのは、誠に喜ばしい事です。その夢の原型は2010年に設置した、信徒それぞれ



無記名で何でも書けるとあって、遠慮なく色々な発想を記しました。その全ては叶いませんが、設計には沢山のアイディアが盛り込まれています。その一つが礼拝堂の増築です。教会は地域の方々を招き、共にささげる礼拝（クリスマス、イースター）、講演会やチャリティーコンサートなどの活動を通して、会衆席をもう少し増やしたいと考えました。最初は40席増を目指しましたが、実際はベストリー配置の都合で約16席増と

れの思いを書き込む一枚の「アイディア・ボード」です（模造紙で作成）。



（建築実行委員長
田口安雄）

なりました。これも夢の実現の一つです。

さて、工事は11月中旬に完了の見込みです。そして11月26日（土）午前11時から、主教様の司式により竣工式を執り行う予定です。皆様には、ご臨席を賜り、共に喜びと感謝の祈りをおささげ頂ければ幸いです。また800万円建築募金は、現在320万円に達しました。募金は12月末までの予定です。どうか今後ともお祈りとご支援をよろしくお願いいたします。



SPGの宣教師フォス・プランマー両司祭が神戸に到着し、宣教の礎を据えられてから140年目にあたる今年、神戸教区では6月から数々の記念行事を挙行しました。そしてこの9月22日に記念礼拝を行い、神戸教区や関係団体、国内外の来賓など、500人を超える会衆が集い、感謝の祈りが捧げられました。

前日から有志によって会場準備が進められ、ホールには各教会から寄せられた「メッセージ入り手形」を張り合わせて作られた大天使の羽が飾られ、多くの方がその前で記念写真を撮りました。また、九州地震救援活動を行った青年ボランティアによって、活動報告と救援活動支援のための熊本物産販売ブースも設けられました。大聖堂聖堂の周辺には、140年に因んで140本の風車が飾られ、風をいっぱいを受けて、来場者の目を楽しませました。

当日は、夜が明けるころから、青年たちがおそろいの記念Tシャツで身支度し、昼食で振舞う焼きそばの準備を開始し、また関係園の教職員によってカレーが用意されました。婦人会も大会に向けて、活動案内と物品販売を行いました。



礼拝には、予想を大きく上回る方が出席され、その日のために用意した式文があつというまに無くなりました。教区に関係する多くの学校・施設・団体が、聖歌隊を始め様々な役割を担い、式典に参加しています。

来賓には、神戸教区の母体となった大阪教区、平和活動で協働する沖縄・九州教区、SPGによって同様に宣教が開始された横浜教区の主教様方を始め、近隣各国



礼拝の様子はホームページ上で配信され、記念品は松陰と共同で準備したミスリー書簡ですが、教区内の全ての方に読んでいただくよう、各教会に順次配布しています。

5年前から各教会で行ってきた宣教活動中期報告が、礼拝前に聖堂内で投影されましたが、これも近く製本し配布する予定で、また、各教会の歴史を収めたDV

からMtS関係者や神戸市内の超教派の代表など、多くの方が祈りを共にし、礼拝後のひと時は、マリンバ演奏や歌曲に耳を傾けました。



Dも制作中です。楽しみにお待ちください。

一連の行事は、11月19日のオルガンコンサートを残すところとなりましたが、これで終わりとするのは、記念聖句「小さな群れよ 恐れるな あなたがたの父は喜んで神の国をくださる」の御言葉に励まされ、記念礼拝での教区主教の説教にあるように、愛の絆にしっかりと結ばれた群れとして、新たな宣教活動の一步を踏み出したいと思っています。

（実行委員長
司祭パウロ上原信幸）